

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

セラム

クリクラボ—移動する教室

2021年9月18日(土)～12月19日(日)

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

インドネシアを拠点とするアーティスト・コレクティブ、セラムによる日本初個展

山口情報芸術センター [YCAM] では、インドネシアのジャカルタを拠点に活動するアーティスト・コレクティブ、セラムによる展覧会「クリクラボ—移動する教室」を開催します。

セラムは、アートと教育を中心に活動する、多彩な経歴をもったメンバーによって構成されています。教育や政治、都市の問題に対して議論の場づくりをはじめ、映像や漫画など多岐にわたる表現活動に取り組んでおり、国内外で発表を重ねています。

日本では初の個展となる本展では、「地域コミュニティ」や「学び」といった主題に焦点を当て、セラムのこれまでの活動を紹介するとともに、来場者の対話を促すイベント形式の3つの作品を実施。展覧会全体が、そこに訪れた人々の価値観や知恵が蓄積され、共有されるプラットフォームとして機能していきます。

異なる世代やバックグラウンドを持つ人々が「学び」についての対話を重ねる本展を通じて、協働や教育の新しい可能性に触れ、他者に対する友好的な振る舞いについて再考するきっかけとなるでしょう。この機会にぜひご参加ください。



セラムがアジア・アート・ビエンナーレ2017で実施した「知識のマーケット」の様子
写真提供：国立台湾美術館

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

地域とアートセンターの関係を再考するプロジェクトが始動



館内のキッチンスペースで展開していた「YAMA KITCHEN」の様子(2016年) 撮影:大林直行

YCAMでは開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求をおこない、美術や舞台芸術の分野においてオリジナル作品を多数制作、発表してきました。また作品制作と同時に、作品と鑑賞者をつなぐ教育プログラムの開発、さらに近年は、YCAMが培ってきたメディア・テクノロジーに関する知識や経験を、地域課題や地域資源に結びつける取り組みにも力を入れています。

開館から20年の節目となる2023年を前に、YCAMは「オルタナティブ・エデュケーション」と題して、地域コミュニティや市民のための学びの場としてのアートセンターの役割を再考するプロジェクトを開始しました。その第1弾として位置付けられる本展では、アートを通して教育問題に取り組んできたインドネシアを拠点に活動するアーティスト・コレクティブ、セラムの活動を紹介します。

セラムは、アーティストやデザイナー、キュレーターなどで構成され、メンバーの多くが美術教師としての教育を受けてきました。彼らは社会や政治、都市、教育といった問題に多様なアプローチで取り組んでおり、国内外の様々な展覧会やアートフェスティバルで発表をおこなっています。教育については、主にアートと教育制度の関係に焦点を当て、過去・現在・未来の教育制度を思索するとともに、教育における「学び」の概念や、教師と生徒の役割に疑問を投げかける活動で知られています。本展では、地域コミュニティとともに学びの新しい形を問い続ける彼らの作品や活動を紹介します。

■ セラム (SERRUM)



写真提供:セラム

インドネシアのジャカルタを拠点にアートと教育を中心とした活動をおこなうアーティスト・コレクティブ。2006年設立。セラム (Serrum) という名前は、「シェア (share)」と「ルーム (room)」を組み合わせた造語で、「部屋を共有する」という意味を持つ。教育や政治、都市などの問題を中心に、国内外のさまざまな背景を持つ人々とコラボレーションをおこないながらビデオ、壁画、グラフィック、漫画、インスタレーション、アートプロジェクト、展覧会、ワークショップ、ディスカッション、ビジュアル・プロパガンダ活動など、多岐に渡るアプローチで取り組んでいる。

価値観や知恵をシェアする多様な学びの場

本展のタイトルにある「クリクラボ (Kurikulab)」とは、インドネシア語で「カリキュラム」を意味する「Kurikulum」と、英語で「実験室」を意味する「Laboratory」を組み合わせた造語で、これは教育に対する彼らの実験的な姿勢を示しています。

本展は、イベントなどの形式で展開する、セラムの3つの作品「クリクラボ」「理想の学校」「知識のマーケット」で構成されます。これらはいずれも人々との対話を促すもので、様々なトピックや形式で展開します。来場者はこうしたイベントに参加できるほか、会場に展示されたイベントの記録から他者の意見に触れたり、自身の意見をそこに残したりすることもできます。ほかにも会場には、来場者がお茶を飲みながら会話できる空間もあり、展覧会全体の体験を通じて、多様な価値観や知恵が蓄積されるようになっていきます。

クリクラボ

教育にまつわるトピックについて意見交換するディスカッション。本展では、会期前に「先生は何のためにいるのか」「学校は何のためにあるのか」といった話題を設定し、そのディスカッションの様子を捉えた記録映像を会場に展示します。また会期中も近隣地域から美術や教育分野を専門に活動する人々を招き、日本の教育制度、地域における文化施設、生活の知恵といったトピックについてのディスカッションもおこないます。



ジャカルタでの「クリクラボ」の様子 (2014年)
提供：セラム

理想の学校

理想の学校を学ぶ側の視点から考えるワークショップ。社会的に固定化された「学校」の概念を、学校の模型を用いながら、物理的な面だけでなく、ルールや制度の側面もふくめて考えていきます。セラムのアプローチには、校風や学校制度、校舎のデザインという3つの側面から、学校に対する学ぶ側の想像力を探る意図があります。



「理想の学校」によって完成した学校の模型 (2016年)
提供：セラム

知識のマーケット

参加者同士が1対1となって、自身の知識を交換し合うプログラム。「すべての人は先生であり、すべての人は生徒である」という考えが基本となっており、単に知識を一方的に得るだけでなく、「学ぶ側」と「教える側」を相互に入れ替えながら、対話を通じて知識を交換できる場です。



ジャカルタでの「知識のマーケット」の様子 (2017年)
提供：セラム

開催概要

セラム

クリクラボー 移動する教室

2021年9月18日(土)～12月19日(日) 10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

入場無料

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

■ 申込方法

ウェブサイト：

下記ウェブサイトを用意された申込フォームに必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

www.ycam.jp

※新型コロナウイルス感染症対策など詳細はYCAMウェブサイトをご確認ください。

会期中開催イベント

■ 知識のマーケット

9月18日(土)、11月13日(土)、12月18日(土)

14:00～15:00

会場：ホワイエ

参加無料 ※要申込(先着順) 定員：各回50名

■ 理想の学校(非公開)

10月2日(土)、10月16日(土)、11月6日(土)

※小学生から大学生を対象とする参加者のみで実施。実施後は、記録を会場にて公開。

■ クリクラボ(非公開)

10月9日(土)、10月30日(土)

※教育関係者などを対象とする参加者のみで実施。実施後は、記録を会場にて公開。

同時期開催イベント

■ YCAMオープンラボ2021

2021年11月26日(金)～28日(日)

「オルタナティブ・エデュケーション」をテーマに、関連する実践をおこなっている専門家を国内外から招聘しディスカッションをおこなうイベントです。アートセンターの役割、アートと都市開発との関係性、学びのための道具としてのアートについて議論を展開します。

■ ミニガイド

10月3日(日)、10日(日)、17日(日)、11月7日(日)、12月

5日(日)、11日(土) 各日15:00～15:15

会場：ホワイエ

参加無料(申込不要) 定員：各回10名

展覧会の運営に携わるサポートスタッフ(ボランティア)が展覧会を紹介するイベントです。それぞれの展示作品で、来場者がどのような体験が出来るかを簡単にご紹介します。

■ ギャラリーツアー

9月26日(日)、10月31日(日)、12月12日(日) 各日

14:00-16:00

会場：ホワイエ

参加無料(要予約) 定員：各回20名

キュレーターをはじめとする制作スタッフとともに、展覧会を鑑賞するツアー形式のイベントです。アーティストや展覧会背景の紹介をしたり、作品についてのディスカッションをおこないます。